

平成29年度 第5回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成29年12月19日（火）10：00～12：00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 13名
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、
分館担当係長 9名
- 4 傍聴者 1名
- 5 配布資料 (1) 提言作成基礎資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
(2) 平成29年度小平市公民館定期講座実施状況表・・・・・・・・・・資料2
(3) 平成29年度小平市公民館まつり開催報告・・・・・・・・・・資料3
(4) 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・・・・・・・・資料4
(5) 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・・・・・・・・資料5
(6) 平成30年度小平市公民館事業計画の概要・・・・・・・・・・資料6
(7) 平成29年度第4回小平市公民館運営審議会会議要録・・・・・・・・資料7
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 提言作成基礎資料について
(3) 公民館定期講座実施状況について
(4) 公民館まつり開催報告について
(5) 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について
(6) 平成30年度 小平市公民館事業計画の概要（案）について
(7) その他

会議の概要

1 館長報告

- (1) 平成28年度決算の概要及び決算特別委員会について

- ① 平成28年度決算の概要について

【歳入】 3,703,843円（前年度比96,897円の減）

主なものとして、施設使用料、コピー機・印刷機使用料がある。

【歳出】 公民館費 414,866,421 円（前年度比 41,572,893 円の減）

主なものとして、嘱託職員等の報酬、講師謝礼、施設管理委託等、備品購入費がある。

② 決算特別委員会について

「社会教育法の第 23 条の規定に係る公民館の利用について」、「毎年度同じ時期に同じ団体の催しが開催されていることに対する部屋の利用について」、「100 人以上の応募があった人気のある講座のフォローについて」、「なかまちテラスの Wi-Fi について」などの質問があった。

(2) 平成 29 年 12 月市議会定例会における一般質問について

① 「女性の就労を応援するために」（さとう 悦子議員）

・男性が家庭や地域で活躍するための取組について

(答弁) 小平アクティブプラン 21 では、重点項目としており、男性向けの家事・育児・介護講座の開催や、男性の働き方、暮らし方の見直しに関する意識啓発、情報提供を行っていく。と市長答弁の中で答えている。

② 「市民が集い学ぶ場を知恵と工夫でもっとふやそう」（日向 美砂子議員）

・公民館の市民学習奨励学級の枠の拡充について

(答弁) 市民学習奨励学級は、市民の自主的、主体的な学びを促進するとともに、学習活動を通じた協働の推進につながる有効な事業と認識している。そのため、より利用しやすいよう昨年度から講座の回数枠の組み換えをした。

枠の拡充にあたっては、公民館全体の講座数との調整も必要となることから、現在の開設枠の範囲でさらに利用しやすい枠組みを工夫し、市民の学習活動を支援していく。

(3) 中央公民館の耐震補強工事の完了について

本年 8 月中旬から中央公民館の耐震補強工事を行っていたが、利用者の方のご理解、ご協力をいただき、予定どおり 11 月下旬に工事を完了した。

また、12 月 5 日に施設整備課による検査を実施し、指摘事項はなかった。

なお、工事完了報告及び工事の主な内容については、施設内の掲示や市のホームページに掲載するなど広く周知している。

(4) なかまちテラスのイルミネーションについて

今年度で 3 回目となるが、職業能力開発総合大学校の多大なる協力を得て、なかまちテラスの外壁にイルミネーションの飾りつけをした。

10 月 28 日の取り付け作業では、たくさんの地域の子どもたちや、なかまちテラス LiNKs

のメンバーの方々の協力により、市民と学生との多世代交流の場にもなった。

点灯式は11月4日に行われ、平成30年2月末日まで午後5時から10時まで点灯している。

なお、今年度の文字は「想（おもう）」で、職業能力開発総合大学校のほか、新たに第二中学校も同じ文字のイルミネーションが光り輝いている。

（質疑応答）

委員 奨励学級の拡充ということで、具体的に昨年度はどう変わったのか。

また、なかまちテラスの職業能力開発大学校の多大な協力とは具体的にはどんなことなのか。

館長 昨年度の奨励学級の拡充については、講座の回数枠を今までの5回と1回のコースに新たに3回のコースを設けた。それに伴い、応募しやすくなったと考えている。応募団体数も27年度を上回る応募があった。

また、職業能力開発総合大学校からの協力については、イルミネーションの網目の中に文字を合わせて電球配置の設計を専門の先生が行い、学生がサポートをして、イルミネーションを作った。専門の知識や技術がないとできない作業になるため、職業能力開発総合大学校の協力が欠かせない事業となっている。

2 提言作成基礎資料について

委員より経過報告及び資料1について説明された。

（意見）

委員 各委員から提言に盛り込むべき内容の意見をまとめたが、他に提言に盛り込むべき項目はないか。

委員 自分達のこととして、実際に現場である分館の状況を知らないとの反省がある。現場に出向いて各分館長と意見交換し状況を把握する中で、審議会の意見もリアリティが出てくるのではないか。

委員 他に提言に盛り込むべき項目はないということで良いか。

委員 なし。

（質疑応答）

委員 では、実際の内容を詰めていく。1の定例会について、事務局の努力により、一定の成

果が上がってきたと思うが、更にこの成果を継続し充実させるという趣旨で、委員からの意見があった。具体的な方策、方向として議論してもらいたい。

(1)の内容は、これでいいと思っている。

(1)の①、年度当初に集中して審議するとあるが、どこまで集中して審議できるか。各公民館、年度当初に講座のテーマは決定しているが、内容が未確定の状態に集中して審議できるか不安である。漠然とした表現になっているので、委員と各公民館の館長と意見調整をして提言に盛り込みたい。

- 委員 1 (1) ①について、「報告時間の圧縮の工夫として」を削除して構わないのではないか。
- 事務局 年度当初の5月にまつりが行われる分館が3館あり、この館については年度当初はまつりがメインの業務となっている。各分館によって講座の交渉状況は違っている。
- 事務局 翌年度の講座企画については、前年度中にある程度の方向性と概要についてまとめ、内容や実施時期の重なりが無いが全館で調整している。ある程度の内容や実施時期が決まっているので、その状況であれば審議していただけるのではないかとと思っている。
- 会長 まだ、講座企画が固まっていない状況の中で、年度当初の審議は難しいという印象を受けるがどうか。
- 委員 講座の内容が固まってから審議するとなると、例えば前期・後期で集中審議をするという考え方で対応できるのではないか。
- 会長 前期・後期に分割して講座の内容を審議する案についてはどうか。
- 館長 1月の審議会では、次年度の事業計画(案)において講座一覧を示すので、その際に審議し、ご意見を頂くことができる。事業計画の最終決定は、3月の予算が採択されてからとなる。
- 委員 3月の予算特別委員会で予算案を審議する前に新年度事業の内容について審議することは可能なのか。
- 館長 毎年度、4月からの事業実施に向けて、1月の段階で事業計画(案)を示している。事前に示しておかないと、新年度になってすぐ実施できないので、審議していただくことは構わない。

- 委員 ①についてだが、具体的に決定していなければ、講師選定等についても公民館運営審議会に相談してもらえれば、委員からも提案できると思う。
- 委員 集中して審議するとあるが、旧年度のものか、新年度のものか。
- 委員 3月の定例会で、当該年度の評価ができるのではないか。新年度は、4・5・7月に定例会があるので、その時期であればある程度、講座のテーマなどが決まっているので集中的に審議しても良いのではないか。
- 委員 ①と②の順番を変えて文言を変更していく。
- 委員 ①について整理すると、1月に示された講座一覧を審議する。4月からは新年度として、前期実施分と後期分とに分けて審議する。
- 委員 ②を①として、文末の「総括を行うとともに、次年度の事業計画案を審議する。」として、新しい②は、「5月または7月に後期の事業を集中して審議する」とすれば良いのではないか。
- 委員 ③についてはどうか。
- 委員 分館長は事業報告だけでなく、各分館における課題についても解決に向けて協議したいという主旨だと思う。
- 委員 課題については、日々の運営の中で解決をしているのではないか。定例会で協議する必要があるか。
- 委員 分館長の発言が少ないので、このような表現になったと思う。
- 委員 では③については、文頭に「適宜、必要に応じて」と加えたら良いのではないか。
- 委員 (2)についてはどうか。
- 委員 このままで良いのではないか。
- 委員 (3)についてはどうか。

- 委員 各委員、公民館まつりや事業企画委員会に参加しているので良いのではないか。
- 委員 2の自主研修会について
- 委員 通称で自主公運審と表現していたが、自主研修会なのか自主学習会なのかがはっきりしない。
- 委員 4月に配布された「公民館運営審議会 日程表」の中では、自主研修会となっており、自主研修会が正しいのでは。
- 委員 (1)のテーマの決定方法について、①は問題ないと思うが、②については、事務局との協議の上で決めていくとあるがどうか。
- 委員 ②については、事務局が他市情報を持っているので、このままで良いと思う。
- 委員 (2)について、自主学習会ではなく、自主研修会と直していただきたい。
- 館長 ④のサークルフェア・結いカフェについては、団体や組織の集まりではなく個人で参加している形式なので、利用者懇談会・友の会とは違う。
- 委員 「本館でのサークルフェア・結いカフェ」を削除し、「利用者懇談会・友の会等・公民館利用団体へ広く呼び掛け」と変更する。

3 公民館定期講座実施状況について

(質疑応答)

- 委員 中央公民館の「思春期の子どもとの向き合い方～親にできること～」について、学校関係者にも情報提供されているようで良かった。各学校の学校支援コーディネーターが参加していて、学校にもPTA室の前にポスターが掲示されていた。目的に沿って必要としている方に告知されていると感じた。内容も学校ではあまり教えてくれないような性教育のことだった。
- また、講座のパンフレットの中に「公民館ってどんなところ？」という、「平成25年度中央公民館パソコン講座サークル活動の情報冊子をつくらうよ」で作成された公民館のお知らせが掲載されていた。利用者の立場に立った内容なのでごくわかりやすく、公民館が親しみやすく感じた。このようなパンフレットは講座ごとに受講者に配られて

いるのか。

事務局 今回のタイムリー講座「思春期の子どもとの向き合い方～親にできること～」は、実施前に担当者と講師が密に調整し、PR 方法も相談しながら工夫して行ってきた。その中で多くの参加を得て実施ができた。また、講座のパンフレットは、それぞれ担当者が作成しているが、その中に公民館の活動やサークル支援の情報を入れている。

会長 参加者は学校支援コーディネーターばかりでなく、一般の方も多かったのか。

委員 子育て世代の方が中心で、子どもが小学生から大学生まで幅広い方の参加があった。男性の参加もあって驚いた。

委員 オリンピックに向けて、英会話講座を3館で実施している。小川西町公民館の夜間講座「あなたもチャレンジ！東京オリンピックに向け、英会話でおもてなし」では、受講者のほとんどが中高年で、女性が8割ぐらいだった。イギリス人が講師をしており、レジュメもしっかりしていて、会話も日本語を使わず英語中心で活気がある講座だった。しかし、オリンピックに向けてやりましょうというタイトルから、これから3年後に向けて、公民館ではどのようなフォローアップ体制ができるのか。

事務局 講座終了後にサークルとして継続的に活動していくことが考えられる。また、英会話に限らず語学の講座は、東京オリンピック・パラリンピックに向けて今後も各分館で順次行っていく予定である。

分館長 仲町公民館では、今年の夏にサタデー講座として、英会話の講座を実施した。国際交流協会から紹介を受けた講師だったが、現在サークル化し、講座終了後も月2回継続して活動している。

分館長 大沼公民館でも同様にサークル化をして、月2回活動している。

分館長 小川西町公民館では現在サークル化に向けて受講者の意向を聞いている。市内全域から参加しているため、サークル化を希望している方はいるが、曜日と時間を調整している段階である。

分館長 花小金井北公民館では、10回の講座を実施したがサークル化には至らなかった。

会長 分館では、サークル化につながっているようだが、中央公民館はどうか。

- 事務局 中央公民館では、語学ではなく、国際理解講座をオリンピック・パラリンピック気運醸成事業として実施した。
- 館長 今年度、中央公民館では語学講座はなく、国際理解講座として、外国文化を学ぶ講座を実施した。
講座終了後の継続した学習活動としては、新たにサークルを立ち上げるだけでなく、国際交流協会と協力・連携を図りながら、活動の場を提供したり、既存のサークルを紹介するなどの情報提供をしている。
- 委員 中央公民館の前期の家庭教育講座について、定員20人に対して応募が少なかったのは、どうしてか。子育て真最中の人は5月5日号だと、見ない人が多いと聞いている。来年度以降、市報の掲載時期やPR方法などを見直したらどうか。
- 事務局 来年度以降、内容等を踏まえながら実施時期を検討していきたい。

4 公民館まつり開催報告について

各公民館より資料3について報告した

(質疑応答)

- 委員 地域の小・中学校の作品が多くなると、利用サークルの展示が少なくなるが、公民館としてどう考えているのか。
- 事務局 各分館の公民館まつりについては、利用サークルの学習成果の発表の場と合わせて地域との交流・連携の場でもある。近隣の小・中学校や関係機関の作品を展示することで地域と連携を図ることは必要であると考えている。
- 委員 学校と連携が取れていることは大変評価している。近隣の学校の作品展示があることは、いろいろな人が公民館を知るきっかけとなるいい機会となる。
- 委員 学校の作品展示により利用団体の展示場が縮小されると思うが、各分館長がうまくアレンジしていた。
日程について、花小金井北公民館と上水南公民館のまつりと小平市の防災訓練も重なって大変だった。せめて公民館まつりの日程は、重ならないように調整できなかったのか。
- 事務局 まつりの日程については、重ならないよう事前調整しているが、各分館の友の会や利用

者懇談会等の意向や都合があるので、日程が重なってしまう年度もある。

会 長 学校が公民館まつりに参加することについてはどうか。

委 員 児童の作品がいつも提供できる訳ではないが、まつりに合わせて作品を用意することは学校としても協力したい。

委 員 各公民館で公民館まつりのPR方法が工夫されていて良かった。事前準備がとても大変だということだが、中央公民館から前日準備に応援を派遣してはどうか。

委 員 公民館まつりはとても意義のあることなので、公民館運営審議会の委員も手伝うくらいのことをやってもいいのではないか。

5 東京都公民館連絡協議会職員部会・委員部会報告について
事務局及び委員より資料4、5を参照

6 平成30年度小平市公民館事業計画の概要（案）について
事務局より資料6について説明した。

（質疑応答）

委 員 来年度から小・中学校で土曜授業が増えると思うが、地域連携を謳っているので、公民館まつりや土曜子ども広場友・遊は、学校の休みと調整するのか。

館 長 まつりの日程は公民館だけでは決められず、一緒に取組む実行委員や友の会・利用者懇談会等と決めていくものだが、来年度については、ほぼ予定が固まっている。来年度、学校の学習指導要領が改訂になり、年8回主に第2土曜日に授業があるので、そこを避けて子ども向けの事業を調整する。子どもの参加・発表する場は工夫して確保していく。

委 員 推進事項8の地域支援講座とはどのようなものか。

事 務 局 地域支援講座とは、公民館のサークルを含め広く地域の方を講師に招いて、地域の課題解決や地域活性化につながることを目的とした講座である。

委 員 同じく推進事項8の市民参加型の講座を「市民参加」より「市民参画」だと分かりやすい。少し表現を工夫をしていただきたい。

7 その他

- ・男女共同参画推進実行委員会が企画・編集する広報誌「ひらく」に、仲町公民館の家庭教育講座「パパご飯 家族が喜ぶ パパッとレシピ」が記載されているので、ご一読ください。

次回は、平成29年1月23日（火）午前10時より、中央公民館会議室にて開催する。